

大学生の議員インターンシップ 4人受け入れました

大学生の議員インターンシッププログラムとして4人受け入れました。これは実体験に基づいた社会を体験し、若年層の政治離れを食い止める目的で立ち上げられたNPO法人であるドットジェイピーの事業であります。やる気を持った若者が集まってくれました。



▲事務所での方策会議の様子

大学1年生2名と2年生2名ですが、自分自身がこの年齢のときに社会に対してこれほどの意識を持っていたとは到底思えず、感心することひとしきりです。彼ら彼女らに何を伝えることができるか、また学んでいただけか、そして何ができるのかを、若者と一緒に考えて行きたいと思えます。2ヶ月間の受け入れですが、これから楽しみです。



インターン生による はじめての 議会傍聴 レポート

2月26日、私達インターン生は、兵庫県庁にてはじめて議会傍聴させていただきました。この日は代表質問が行われました。自民党、民主党県民連合、公明党県民会議の代表者がそれぞれ質問し、それに対して質問された側が答弁するという形で議会は進みます。

この代表質問は、予め用意された質問・答弁を読み上げているため、一見すると予定調和的な質疑・応答に終始しているかのように映りますが、実際はそうではありません。この用意された質問内容・答弁内容こそが、議員側と行政側との長期に渡る激しい議論の末に完成した、『県政の争点の一覧表』とも言うべきもののなのです。質問では行財政改革、医療・福祉、教育、環境、子育てなど様々な問題を取り上げていて、「今、兵庫県に何が起きているか」「何を解決すべきか」を明確に知ることが出来ます。

私達以外にも、たくさんの方が傍聴に訪れ、熱心に耳を傾けていました。こうした県民の姿勢が県政をより良い方向へ育てていくのではないのでしょうか。実際に傍聴を終えた今、県政の現状を把握し、個々人が関心を持つためのきっかけとして、議会傍聴は非常に効果のあるものだと考えます。

議会傍聴には難しい手続きは必要ありません。皆様も、一度議会に足を運んでみてはいかがでしょうか？（インターン生）

兵庫県議会報告

2月20日から3月25日の日程で、第294回兵庫県議会が開会されています。今議会は、厳しい財政状況のもと先日発表された「新行財政構造改革推進方策[新行革プラン]（第一次案）」を含め、財政健全化に向けた質疑が多く交わされています。

今議会初日に知事提案がなされ、行財政構造改革に向け邁進する旨の発表がありました。

また、阪神北県民局などの地方機関の再編に関しては6月ぐらいを目途に、第2次案としてまとまる予定です。

知事から発表された兵庫の次年度の7つの重点施策は

- ①兵庫の元気の創出
- ②生活の質の向上
- ③交流の促進
- ④家庭と地域の再構築
- ⑤安全安心の確保
- ⑥参画と協働の推進
- ⑦分権改革の推進

ですが、国が地方を支配してきた官僚国家体制にそろそろ終止符を打ち、地域主権型道州制を視野に入れた地方分権を押し進めていかなければならないと考えるところです。



箱物行政からの脱却

震災からの創造的復興ということで、多くの施設建設を進め過ぎたことで県財政が悪化し、ない袖はふれないと箱物に比べ金額がかからないソフトの予算が削られ、市町の負担が増え、職員の給料は減額されることは残念なことであります。

もちろん議会としても承認していたわけですから、県議会議員の報酬も10%減額することに決まりました。

ナショナルミニマムは時代の変遷と共に限度が上がります。おそらく無意味な施策はなかったと思いますし、県民の要望の元に執行されていたと思いますが、結局無理をして建設してしまうと、次の世代に負担がのし掛かるのは自明の理であります。

将来お荷物資産になるのかどうかの判定を厳しくチェックしながら次の世代に対し負の資産を残さないという前提で執行していかねばなりません。